

〈原 著〉 第51回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

## 持参薬受付時における「お薬窓口問診票」、「写真撮影システム」の導入

大森赤十字病院薬剤部<sup>1)</sup> 医療安全推進室<sup>2)</sup>博田 舞子<sup>1)</sup> 高田 あゆみ<sup>1)</sup> 市川 騰<sup>1)</sup> 川村 千穂<sup>2)</sup> 天艸 成子<sup>2)</sup>  
平岩 知子<sup>1)</sup> 市川 敬太<sup>1)</sup> 後藤 亨<sup>2)</sup>The usefulness of adopting 'The questionnaire about basic pharmaceutical information' and  
'The system of taking photos of medicines brought by patients', before hospitalization.Maiko HAKATA<sup>1)</sup>, Ayumi TAKADA<sup>1)</sup>, Noboru ICHIKAWA<sup>1)</sup>, Tiho KAWAMURA<sup>2)</sup>, Shigeko AMAKUSA<sup>2)</sup>,  
Tomoko HIRAIWA<sup>1)</sup>, Keita ICHIKAWA<sup>1)</sup>, Toru GOTO<sup>2)</sup>

Japanese Red Cross Omori Hospital

Key Words : 持参薬、医療安全、術前中止薬

## 【背景および目的】

現在、診断群分類包括評価制度（DPC）を採用している当院では、入院中に持参薬を使用する機会も多い。そのため予定入院の患者には入院当日、病棟に行く前に薬局のお薬窓口に寄って持参薬を預けてもらっている。今まではただ薬を受け取るだけであったが、この機会を利用し、①本人又はキーパーソンからの確実な情報収集②病棟担当薬剤師の初回面談及び情報収集時間の短縮③副作用歴、アレルギー歴、手術目的患者の術前中止薬の確認の徹底のため、昨年より、予約入院患者に対し持参薬を預かる際に問診票による患者基本情報の収集を開始した。また、預かったお薬手帳、薬の説明書などの返却トラブル防止のためお薬窓口カメラを設置し、写真撮影システムを導入した。今回これらについて、問診票活用による病棟薬剤業務の有用性と効率化、医療安全への貢献の両面から考察したため報告する。

## 【方 法】

1) お薬窓口問診票の導入：病棟の初回面談にて聴取する内容（副作用歴など）、入院前からの中止薬、中止時期を記入するお薬窓口問診票を作成し（図1）、電子カルテ化することで、院内のパソコンでどこでも見られるように設定した。また、問診票導

**お薬窓口での問診票**

ID: 9999990

患者名: てすと患者 様

誕生日: 2015年08月25日  
受付薬剤師: 博田 舞子

持参薬受付時の確認事項

・薬口にある薬を持ってきたのは?  
☐本人 ☐家族 ☐ヘルパー等 ☐その他 ( )

・薬の管理は?  
☐本人 ☐家族 ☐ヘルパー等 ☐その他 ( )

・服薬状況  
☐指示通り服用出来ていた  
☒お薬に服用忘れがあった  
☐途中で服用しなかった  
☐その他 ( )

・副作用歴  
☐無し ☒有り  
 時期: 3年ほど前  
 薬剤名(OTC薬・健康食品等を含む):  
 (ロキソニンで薬疹)

・アレルギー歴  
☐無し ☒有り  
☐喘息 ☒アトピー  
☐食物 ☐金属  
☐その他(花粉症) ( )

・健康食品、サプリメント、栄養剤  
☐無し ☒有り (グルコサミン) ( )

・中止薬について話がありましたか?  
☐無し ☒有り

いつから休薬していますか?  
 2015 年 8 月 24 日 から  
 薬剤名  
☐アスピリン  
☐アスピリン  
☐クアアザン  
☐ロキソニン  
☐その他 ( )

※中止薬を服用していた場合は医師、病棟担当薬剤師に速やかに連絡

備考

主な項目:

- ・副作用歴
- ・アレルギー歴
- ・健康食品、サプリメント、栄養剤摂取歴
- ・中止薬の有無（あれば薬剤名と中止日を記入）

図1

外来の麻薬お渡し時に元々使用していたお薬窓口の天井にあるカメラを利用



カメラと連動しているPC上でお薬手帳など含めて撮影



撮影した画像は後からPC上で確認することもできる

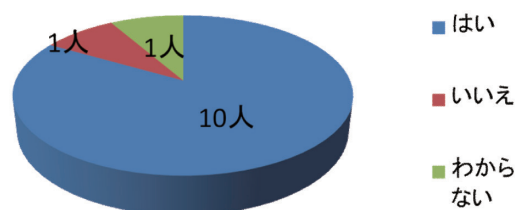


図2

●お薬窓口問診票を確認していますか？

→12人の薬剤師全員「はい」と回答

●お薬窓口問診票を導入した事で病棟業務の効率化がはかられたと思いますか



●問診票を導入する前に比べて初回面談の時間はおおよそどのくらい短縮しましたか

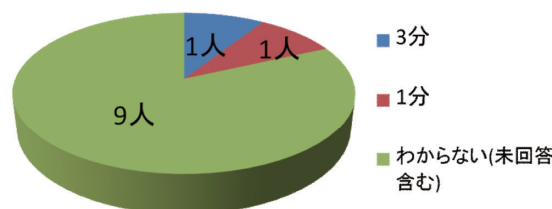


図3

入により病棟での業務量や業務時間の短縮など有形効果があるか、問診票の確認により医療安全上のリスク回避に繋がった症例があるかについて病棟担当薬剤師を対象にアンケートを行った。(回収率100%)

2) 写真撮影システムの導入：お薬窓口の天井に撮影カメラ（トーション「投薬記録システム」）を設置し、お預かりする持参薬をお薬手帳やお薬の説明書を含めて撮影し（図2）、麻薬の受け取りや退院

●「中止薬の種類、期間」の欄によって手術の延期など防げた症例を挙げてください

【症例1】

右腎切除オペ予定患者。事前に内服していたバイアスピリンは服用中止するよう医師より説明あり。入院当日薬剤師が問診を行ったところ、バイアスピリンの他にバファリン配合錠も服用していたことが発覚。医師がバファリンがアスピリンであることに気付いておらず服用許可を出していた。患者はバイアスピリンは中止していたがバファリンは内服継続していた。薬剤師より医師に報告、手術は延期となった。→類似した症例がタケルダでも起こり回避した。

【症例2】

大腸EMR予定患者。入院前より常用薬のオパルモン錠の中止の指示有り。しかし、入院当日に薬剤師が窓口で確認した際に後発品のリマプロストアルファデクス錠を持参してきていた。患者は同じものと分からず服用を続けていたとのことで医師に報告した。

【症例3】:副作用欄によって回避できた例

肝臓がんに対するRFA予定患者。薬剤師の窓口での問診票にスルペラゾンによるアレルギー歴との記載あり。カルテ等にはそのような記載がなかったため、病棟担当薬剤師が本人に確認。本人よりアレルギーがあったとのこと、またすでに注射オーダーにスルペラゾンが入っていたため主治医に報告、スルペラゾンからクラビットへの変更となった。

図4

### ●現行の問診票に追加で必要な項目はありますか？

- ・持参薬が一包化されているかどうか、退院時に一包化希望かどうかのチェック欄
- ・持参薬の中に残薬があるか→コンプライアンスの指標にする

図5

時の返却などのトラブルに対する効果を評価した。

### 【結果および考察】

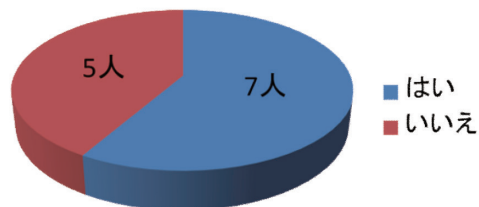
1) 病棟薬剤師のアンケートから、薬剤師が全員お薬窓口問診票を確認しており、事前に情報収集できることから効率的になったと感じる薬剤師が多いことがわかった。

しかし、初回面談時には副作用歴などをもう一度直接患者本人に確認している薬剤師がほとんどであるため、初回面談の時間短縮までは実感できなかったと考えられる。また、術前中止薬についての欄を設けたことによってインシデントで留められた症例がみられたことは大きな成果といえる(図3、4)。今後は回避例を集積し医療従事者にフィードバックすることによって注意を促していく。現行の問診票に追加して必要な項目も上がったが、電子カルテに入力する時間とのバランスも考慮しなくてはならず、一概に増やせないため引き続き内容を検討していく必要がある(図5)。また、現在はお薬窓口で持参薬を受け取るのがほぼ予約入院のため、今後病

棟での緊急入院患者においても検討を行っていく。

2) 導入から現在まで、麻薬や退院時の返却忘れなどのトラブルが起きていないため具体的な症例がなく、アンケート結果も分かれた(図6)。今後起こりうるトラブル対策のために、退院時は撮影した画像を確認できるようにして渡し忘れが無いように工夫していきたい。

### ●お薬窓口での持参薬受付時に撮影をしていますか活用しようとは思いますか



### ●「はい」の時、それはどのような状況ですか

- ・薬やお薬手帳の紛失トラブルの際の確認として...7人

図6